

平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その1)

計画体系コード	1-2-3		事業名	さっぽろ夢大陸「大志塾」事業			
担当	子ども未来局子ども育成部子どもの権利推進課 皆上 211-2942						
全体計画							
事業内容	子どもたち自身が希望・想像する活動を自分たちで準備・調査・計画し、お互いに相談・協力しながら手作りで型にはまらない体験活動を継続的に実施する事業。 次代を担う子どもたちの自主性・創造性・協調性・自己表現力を育むことを目的とする。 大志塾事業は、これまで行われてきた「(大人が)あらかじめ用意したプログラム」といった事業ではなく、「子どもたちの体験を広げるための支援」を行う事業として、また、子どもの意見表明権を具現化する場として位置づけている。 [活動場所] サッポロさとらんど内の大志塾事業用地			<年度別の事業内容>			
				平成19年度から22年度 農業支援センター等関係機関と連携を強化し、市内の小学生200名を対象に実施			
事業内容・量・場所・規模・件数等	平成19年度事業内容(決算)			平成20年度事業内容(予算)			
	子どもたちの自主性、創造性、協調性などをはぐくむために、子どもたち自らが活動の計画や準備を行い、互いに相談・協力しながら継続的な体験活動を行なう参加型事業。 活動期間:5月から9月までの土曜日8回 対象:市内の小学校1年生から6年生まで 活動場所:サッポロさとらんどの一部(さとらんど整備計画のない遊休地・さとらんど交流館など) 第1回:オリエンテーション、今後の活動について意見を出す(さとらんど交流館) 第2回:子ども村づくり活動 第3回:子ども村づくり活動 第4回:子ども村づくり活動 第5回:子ども村づくり活動 第6回:子ども村づくり活動 第7回:子ども村まつり・キャンプ 第8回:収穫祭			子どもたちの自主性、創造性、協調性などをはぐくむために、子どもたち自らが活動の計画や準備を行い、互いに相談・協力しながら継続的な体験活動を行なう参加型事業。 活動期間:5月から9月までの土曜日8回 対象:市内の小学校1年生から6年生まで 活動場所:サッポロさとらんどの一部(さとらんど整備計画のない遊休地・西岡青少年キャンプ場・さとらんど交流館など) 第1回:オリエンテーション、今後の活動について意見を出す(さとらんど交流館) 第2回:子ども村づくり活動 第3回:子ども村づくり活動 第4回:子ども村づくり活動 第5回:子ども村づくり活動 第6回:キャンプ(西岡青少年キャンプ場) 第7回:子ども村まつり 第8回:収穫祭・キャンプ			
達成目標の状況							
項目		18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (予定)	21年度末 (予定)	22年度末 (予定)	22年度末 (目標)
参加人数		186人	167人	200人	200人	200人	200人
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)							
<p>市民との連携、市民参加</p> <p>本事業は、参加者である市内小学生が自身の希望・想像する活動を自分たちで準備・調査・計画し、お互いに相談・協力しながら、手作りで型にはまらない体験活動及び活動場所作りを継続的に実施するという、子ども自身が主体的に参加する事業である。これにより、自主性や創造性、協調性をこれまで以上に育むことが期待される。</p> <p>企業等との連携・協働</p> <p>[資金協力] [人材協力] [情報協力] [その他の協力]</p> <p>市民・企業等が参加しやすい環境づくり</p>							

## 平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その2) (単位:千円)

計画体系コード	1-2-3	事業名	さっぽろ夢大陸「大志塾」事業			
評価(成果)			課題			
<p>事業に参加することにより、自分たちで話し合い考えたことを実際に自分たちで取り組んでみるという、普段の生活では体験できない、貴重な体験機会を得ている。また、自分たちで考え、自らが行動することで、創造性・自主性が養われる。</p> <p>事業の対象者が小学1年生から6年生ということもあり、様々な学年との交流の機会を得ることができうえ、全市からの参加者が集うことで、違う学校の子もたちとの交流機会も得ることができる。また、学校の友達ではない子どもたちと協力し行動することで協調性が養われる。</p>			<p>子どもたちの多様な意見や考えを実現するための時間や技術的な支援ができる大人の人数、活動材料についても不十分であるため、意見の実現に制約が生じる。そうした限られた条件の中で、いかに工夫して子どもたちの意見を実現に結びつけるか、プログラム上の工夫が必要である。</p> <p>事業実施により、子どもたちの体験を広げる支援はできるが、地域的な偏りがあるため、事業に参加する以外の場では子どもたちの多様な体験機会の充実が図られていない。</p>			
今後の事業の予定・方向						
限られた条件の中で、多彩な活動ができるよう、様々なフィールドや人材の活用を検討する。これにより、子どもたちにとって、より身近な場所で、多様な体験機会が得られるよう、既存のストックを活用しながら、新たな事業形態を開拓していく。						
事業費の推移						
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計
計画	事業費	3,915	3,695	3,695	3,695	15,000
	財源内訳					
	国・道支出金	0	0	0	0	0
	市債	0	0	0	0	0
予算	事業費	3,915	3,339	-	-	7,254
	財源内訳					
	国・道支出金	0	0			0
	市債	0	0			0
実績	事業費	3,933	-	-	-	3,933
	財源内訳					
	国・道支出金	0				0
	市債	0				0
事業費の進捗率		(19年度実績事業費 + 20年度予算事業費) / (計画事業費)				48.5%
計画との差異(予算・事業内容・規模・時期等)						
(全体)						
[19年度]						
[20年度]						